

～ 子ども達の力を信じて見守っていい ～

大きいダンボールや空き箱、いろいろな廃材を用意しました。秘密基地や、お部屋が作れるデモを見せましたが、完成形は無く、作りたい物を作る提案をしました。

子ども達はすぐに廃材を手にし、何かを作り始めます。数人で大きなものを作る人達、1人で黙々と作る人がいます。新しい道具(段ボールカッター、ボンド)に挑戦し、何度か使っているうちに、コツをつかんでいきます。どう接着したらいいか、試行錯誤しています。早々に満足するものを作り上げ、それで遊んでいる人もいます。

大人が盛り上げたり、導いたりしなくても、子ども達は自分でイメージし、ひらめき、どうしたらいいか考え、形にしていきました。

自分主導なので、失敗して誰かを責めることなく、じゃあこうしよう、と次に展開していきます。自分で何が必要か、どうして欲しいかがわかっています。友人と対立した時には、自分達で話し合っています。大人の提案を、やるやらないは自分で決めています。大人が少しやって見せると、「そうか！」とすぐに理解していきます。

言葉少なく見守るだけで、子ども達の力が見えてきました。子ども達の力を信じて見守っていい。

大人は、困った時に手伝い、ちょっとしたヒントを見せるくらいで良いのかもしれませんが。

自分で選択し決めていくからこそ、自分の感性にフォーカスして創造していける。そうして作った物は特別らしく、得意気に満足気に友人に見せていました。

